

吹田市議会会派 立憲民主党

(議会報告の説明はは抜粋して掲載しています)

発行元： 市議会派立憲民主党
議会報告 令和 8 年 新年度 号

にしおか 友和 吹田市議会議員 文教市民委員会 委員長



吹田市議会派 立憲民主党の『にしおか友和』です。吹田市議会は、新年度（令和8年度）予算を策定する2月定例議会を3月24日に閉会しました。本定例会は「未来への投資と財政規律の両立を問う予算議会」です。

一般会計約1,820億円の当初予算案では、子育て・教育やDX推進への投資が特徴的です。一方、物価高による契約増額、老朽化インフラの更新、システム標準化など、様々な取り組みが進められます。

全国的にも類を見ない、吹田市独自の人口増の強みを活かしつつ、次期総合計画を見据えた持続可能な行政経営をどう担保するか、議会において数字を根拠に厳しく審査された結果、当初予算は可決されました。

令和8年度 吹田市 施政方針：未来へつなぐ、幸せと誇りを実感できるまち

優先事項として掲げたのが、子育て支援の抜本的な拡充です。特に、保護者の就労状況に関わらず保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」の本格実施に向けた基準策定は、育児の孤立を防ぐ大きな一歩となります。

併せて、家計の負担を直接的に軽減する小学校給食費の無償化・負担軽減策を継続し、すべての子どもたちが健やかに学べる環境を堅持してまいります。さらに、こども発達支援センターの体制を強化し、専門的な支援が必要な子どもとその家族に寄り添う施策を推進いたします。

市民の皆様の健康と安心を守るセーフティネットの強化も、今予算の重要な柱です。国民健康保険料の改定にあたっては、低所得世帯や未就学児を抱える世帯の負担を軽減する措置を拡充し、生活の安定を図りました。

また、災害に強いまちづくりとして、老朽化した消防車両の計画的な更新や、岸部市民センター、男女共同参画センター、自然の家といった公共施設の大規模改修に着手し、安全性の向上に努めます。

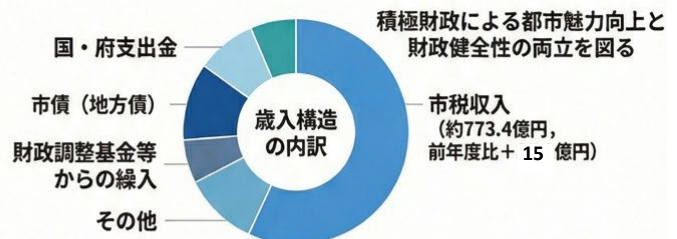
インフラ維持においては、物価高騰に対応した適切な契約管理（インフレスライドの適用）を徹底することで、公共サービスの質を維持しながら、地域経済の基盤を支えてまいります。これらの施策はすべて、皆様からお預かりした貴重な税金を「命と暮らし」に直結させるための投資です。

立憲民主党、「にしおか友和」は、これからも市民の皆様の切実な声を政策の柱に据え、吹田市がより住みやすく、希望に満ちた街となるよう全力で邁進してまいります。

今後とも、皆さまの声を市政へと届けるため、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

主な歳入と重要プロジェクト

一般会計 1 8 1 9 億 9 6 5 6 万円



重点投資① 子育て・教育の拡充

- ・小学校給食費の無償化：
約12億円
(国交付金活用)
- ・留守家庭児童育成事業
の拡充：
約955万円
(待機児童最小化・
入室希望者対応)
- ・子どもの医療費助成
システム改修：
約970万円
(オンライン資格
確認導入)



重点投資② DX（デジタル・トランス フォーメーション） の推進

- ・学校現場へのAI翻訳
機の本格導入：
約367万円
(韓国・外国人児童
生徒対応)
- ・基幹系システムおよび
行政事務の効率化：
(AI-OCR活用、共通基盤
システム標準化)



重点投資③ インフラ再編と 公共施設の最適化

- ・「玉突き移転」による
施設再編の推進：
(例：保健推進事業
関連移転
約940万円)
- ・吹一地区公民館・高齢
者いこいの間の整備：
約3億535万円
(複合化・長寿命化)
- ・竹見台多目的施設・
旧南竹見台小学校体育
館の解体撤去：
約1,334万円
(設計等、耐震不足解消)



西岡

次年度、新規に計上された北千里駅前再開発事業への補助金および事業費について、市の財政負担と再開発の基本理念について伺います。

財政負担の規模と根拠について本事業に対し、再開発事業費として約1.8億円（うち市債1.6億円）、さらに事業費補助金として約3.5億円が計上されている。特定の再開発事業に対する多額の公金投入となるが、多額の税金を投入する以上、単なる商業施設の更新に留まらず、市民にとって具体的なメリット（公共的空間の創出、交通利便性の強化、防災機能の向上等）が不可欠であります。私が申し上げたいのは、北千里に高層建築物は相応しくない、というような議論の前に、もっと基本的な理念、街づくりの哲学が必要だと感じています。北千里駅周辺を「地域拠点」としてどう再生させるのか、事業者に対してどのような公共貢献を求めているのか、あらためて基本理念を伺います。

市 初めに基本理念につきましては、平成28年、2016年に本紙が策定しました。北千里駅周辺活性化ビジョンにおいて掲げた4つの基本理念のもと、商業機能や公共公益機能の更新による地区センターとしての機能回復はもとより、一体的な整備による歩行者動線や広場といった、ゆとりある空間を作ります。

またオープンスペースの確保などにより、将来にわたり魅力的で、にぎわいのある、誰もが利用しやすい地域拠点の形成を目指しているところでです。

公共貢献としましては、市街地再開発事業による駅前交通広場の再整備、周辺、街区との一体的な歩行者、ネットワークの形成、新たに創出する歩行者の空間や、その広場などの整備により、北

里駅前における人が中心のまちづくりの実現を目指しています。以上でございます

西岡

JR吹田駅前滞在空間創出事業「さんくす夢広場」における社会実験について、わずか1ヶ月の実験で何を見極めようとしているのか、その目的と検証指標を伺います。

まず実験の目的と業績評価指標（KPI）について予算額124万円という小規模な予算で、ファニチャー（家具）設置による滞留性向上を検証するとのことですが、単に「座っている人が増えた」というだけでなく、周辺商店街への移動線や消費行動への波及効果をどう測定するのか。具体的なKPIの設定について伺います。

安全管理と維持管理について駅前広場は通行量が多く、夜間の治安や清掃面での課題も想定される。予算内訳には賠償責任保険料や清掃委託料が含まれているが、設置するファニチャーの管理責任や、トラブル発生時の対応体制はどうなっているのか。また季節による行動特性も変わってくるとおもうが、考慮されているのか。

市

JR吹田駅南側駅前広場の社会実験につきましては、居心地が良く歩きたくなる街づくりを目指して、滞在空間を創出し、検証などを行ないます。具体的なKPIを設定しているものではありませんが、人流データなどを用いて、前年の同時期との利用者数の比較や、周辺の事業者への聞き取り、アンケートも実施する予定です。

安全管理につきましては、地域の方々のご意見を伺うとともに、関係機関とも協議を重ねながら、詳細を決定していきたいと考えています。

また、トラブル発生時には、緊急連絡体制を構築し、対応する予定です。

開催時期につきましては、気候が良く、比較的快適に滞在していただける秋ごろを予定しております。

北千里再開発：建物の「高さ」より大切な「街づくりの哲学」

市に問う「3つの再生ビジョン」



地域拠点としての再生

千里ニュータウンの北の玄関口として、賑わいと交流を生む拠点機能をどう取り戻すか。



事業者へ求める「公共貢献」

利益追求だけでなく、広場やコミュニティ形成など、街全体の価値を高める貢献を事業者に促します。



持続可能な「北千里ブランド」

公共と民間が協力し、次世代へ引き継げる質の高い都市空間を創出することを目指します。

1974年 吹田生まれの吹田育ち。千里山団地に生まれ、佐井寺・五月が丘育ち、藤白台に在住 3児の父親
千里第二小学校～佐井寺小学校～佐井寺中学校～箕面自由学園高等学校 関西大学 法学部 大阪府立大学 大学院 博士前期課程 修了
株式会社ドコモCS（NTTグループ）に20年間勤務 ICTシステムコンサルタント
藤白台小学校PTA会長（2018年・2019年・2023年・2024年） 元青山台地区地域教育業議会 副会長 元藤白台地区青少年対策委員会 委員長
吹田市議会：文教市民常任委員会 委員長 立憲民主党大阪府連合 副幹事長 整理収納アドバイザー 準1級
大学（大学院）は働きながら奨学金を利用して全額自費にて卒業。その経験から学費の無償化や無利子奨学金制度の導入を求める活動を通じて政治家を志す。3児の子育て真っ最中、吹田市の教育に熱い思いをもって、市政に取り組んでいます。